友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ子供を育てる
～サーキット遊びを通して～

庄下保育所

【手立て（援助）や環境構成の工夫】

- 多様な動きを楽しめるように、粗大運動（転がる、ジャンプ）と集中して取り組む運動（梯子渡り、平均台）など運動要素をバランスよく取り入れる。
- 子供が設置できる遊具（バランスストーンやフープ）を用意し、子供のアイディアを取り入れながら一緒にコースづくりをして、活動の意欲を高める。

【成果】

- 繰り返し活動する中で達成感を味わい、さらに挑戦する姿が見られた。発達に応じて内容を変更したり、挑戦意欲を刺激するような遊びを取り入れたりすることで、意欲が高まり、体を動かして遊ぶ楽しさにもつながった。
- コース内容や順番を工夫することで運動量も増えた。

【課題】

- どのような体の動きや運動要素を経験させたいかを考え、その動きがより楽しくなるような用具・遊具類の環境を工夫する。

遊びの中で跳ぶ運動を楽しむ子供を育てる
～「ゴム跳び遊び」を通して～

東部保育所

【手立て（援助）や環境構成の工夫】

- 高さに挑戦できるように、引っかかっても痛くないゴムひもを使う。
- 抵抗なく取り組めるように、最初は跳ぶだけでなく、色々な方向に引っ張ったり、くぐったり、またいだりしてゴムの性質を楽しめるようにする。

【成果】

- 片足や両足で跳んだり、助走をつけたりするなど、様々な跳び方を経験できた。
- 子供が自分たちでゴムの高さや幅を変えるなどのアレンジをして、いろいろな高さや跳び方に挑戦していた。

【課題】

- 跳ぶ難易度を上げ（連続して跳ぶ）たり、楽しみながら（歌やリズムに合わせて）跳んだりできる遊びの工夫を取り入れる。

保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを喜ぶ子供を育てる
～「十字鬼遊び」を通して～

出町認定こども園

【手立て（援助）や環境構成の工夫】

- 鬼にタッチされないように左右に素早く動いたり鬼が子供にタッチしたりできるように、移動する空間を安全かつ動きやすい幅にする。
- 子供たちの思いを聞き、タッチされたら鬼が増える、鬼と逃げる人が交代するなど、子供同士で話し合う時間を設け、ルールを変更して楽しむ。

【成果】

- 友達の動きやラインを見ながら走ったり、跳んだり、体を左右に動かしたりすることができたことで、俊敏性が養われた。
- ルールを変更することで新たな楽しさに気付き、友達や保育者と一緒に何度も繰り返し体を動かして遊ぶことができた。

【課題】

- つかまらないように鬼から離れた所であまり動かない子供や、鬼にタッチされても鬼になりたがらない子供などが見られた。子供たちと一緒に、みんなで楽しむためのルールにする必要がある。

友達や保育者と一緒に、自ら体を動かして遊ぶ子供を育てる
～「げんきもりもりタイム」を通して～

南部認定こども園

【手立て（援助）や環境構成の工夫】

- 子供たちが日常的に運動に取り組めるように『げんきもりもりタイム』として1日の保育の中で意図的に運動の時間を設ける。
- 走る・跳ぶ・投げるなど様々な動きのある運動遊びのコーナーを設定する。
- 異年齢で活動する際に、難度の違う複数のコーナーを設定する。

【成果】

- 難度の違う複数のコーナーを設定することで、子供たちが自分で選び主体的に活動できた。
- 異年齢で活動する中で、年下の子供が年上の子供を見て「自分もやってみよう」と積極的に挑戦することに繋がったり教え合ったりする姿が見られた。

【課題】

- 異年齢で活動する際の活動時間や活動場所、発達段階を考慮した内容を担任間で話し合い共通理解しておく。

体を動かして遊ぶことを楽しむ子供を育てる
～「忍者ごっこ」を通して～

北部認定こども園

【手立て（援助）や環境構成の工夫】

- 忍者になる楽しさを感じられるように、忍者の絵本を見たり、リズムを踊ったりしてきたことで「忍者になりたい」という気持ちが子供たちに出てきた。
- いろいろな遊びに「～の術」と名称をつけることで忍者になりきり、様々な動きを取り入れて継続的に体を動かすことを楽しんできた。
- 投げる動きでは、近くの標的に当てるところから始め、高いところ、遠くまで飛ばすなど変化を出すことで、継続して遊ぶことができるようにした。

【成果】

- 忍者になりきって遊ぶことで、保育者や友達と楽しみながら取り組むことができた。
- 走る、跳ぶ、投げる、くぐる、リズムに合わせて踊るなど、いろいろな動きで体を動かすことができた。

【課題】

- 環境構成や発達段階によっての援助の仕方や意図等について、保育者間で共通理解する必要がある。
- 個人での運動が多かったので、集団での活動も取り入れる。

体を動かして遊ぶことを楽しむ子供を育てる
～マットがけリレーを通して～

太田認定こども園

【手立て（援助）や環境構成の工夫】

- 姿勢保持につながるように、体幹を使った動きを取り入れる。『マットがけリレー』
- 継続して取り組めるように、二人一組になり、リレー形式で行う。
- 子供たちが自分たちでペアや順番を決めたり、マットの押し方のコツを話し合ったりする時間を用意する。

【成果】

- ４歳児の時から継続して取り組んでいることから、正しい姿勢で、話を聞くことが身についてきた。
- 友達と一緒にマットがけをすることで、互いの速さを合わせたり、声をかけ合ったりして友達と協力して体を動かすことができた。
- リレー形式にしたことや子供たちで順番などを決めたことで、意欲的に体を動かしたい気持ちに繋がった。

【課題】

- 引き続き子供たちが楽しんで取り組めるよう、マットだけでなく重さの違うマットや雑巾など、素材を変えて取り組んでいきたい。